

令和3年度 杉原谷小学校 学校評価シート

学校教育目標

本年度の重点目標

いのちと人権を大切にし ころろ豊かにたくましくのびる ふるさと大好き 杉小っ子の育成 ～自分・友だち・学校・ふるさと、みんな大好き杉原谷小学校～					1 いのちの大切さと人権尊重の精神を基盤にした、学校経営の推進 2 当たり前に取り組み丁寧にやりきる学びの継続と「対話的な学び」に主眼を置いた、深い学び・生活に生きる学びにつながる授業の創造 3 人・もの・こととのふれあいを通じ、ふるさとを誇りに思う心や将来の夢を育む「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進 4 学校と家庭・地域が一体となって子どもを育む、安全で安心な学校づくり	
---	--	--	--	--	--	--

学校自己評価（達成状況）【 A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】							学校関係者評価
観点	項目		取組（上段）と達成（下段）の状況	評価	総合 評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策 の適正さの評価
豊かな心の育成	「心の健康教育」の推進	1	学期に一度の心の健康教育の実施、1学期と2学期にストレスチェックの実施 計画的な実施ができた。また、ストレスチェックは児童の内面理解に役立てられた。	A	A	・計画的な実施はできた。児童の実態に合わせた指導を、専門家にも助言していただき取り組んでいく。 ・各クラスでも、日常の中で振り返る時間を確保する。	○人権教育が進んでいる。ばかばか週間やいじめへの取組もよい。
	「あったかあいさつ運動」の推進	2	児童会と3年生以上の学級委員によるあいさつ運動の実施 概ね気持ちよく挨拶できているが、形式的になっている部分が見られた。	A		・来年度も児童会役員と3年生以上の学級委員によるあいさつ運動を推進していく。 ・挨拶が形骸化しないよう、その意義や価値を児童会が中心となり発信していく。	●子ども同士の挨拶がない。照れがあるのでは。
	人権教育の充実	3	毎月のばかばか週間の取組、人権集会の実施 毎月の取組が自分のことをふり返ったり、周りの人たちへの感謝の気持ちを持ったりする良い機会となった。	A		・ばかばか週間の取組も人権集会の実施も形式的なものにならないよう、内容を検討していく必要がある。	立ち当番の方には元気に挨拶できている。
	道徳教育の充実	4	教科書及びノートや副読本（心シリーズ等）を活用し、週1時間授業の確保 年間カリキュラムに基づき、教科書及びノートが活用できた。授業時間も確保でき、道徳性が高まった。	B		・計画的にすすめることができた。好ましい人間関係を築けるような教育環境づくりをし、教育活動全体を通して実践力を育成していく。 ・コロナ禍により2年続きで授業公開ができなかったので、来年度は時期関係なく、できる時に公開するようにする。	
確かな学力の育成	学びの土台づくり	5	当たり前前に学び、最後までやりぬく姿勢の涵養 自ら学び、最後までやりぬくことが当たり前、という学びへの姿勢が定着した。	A	A	・「当たり前前に取り組み、最後まで必ずやりぬく」という学びの姿勢、学習規律の徹底を、今後も継続して鍛えていく。 ・「その日の課題はその日のうちに」を今後も実現していけるよう、全職員で意思統一し、組織的に取り組んでいく。	○学力が上がっているのがよい。
	深い学びにつながる授業づくり	6	「杉小授業モデル2021」の共通理解と実践 4月の研修で授業モデルの共通理解を図り、全学年で取組を進めることができた。	A		・教師間の授業相互見학을来年度も行い、学級経営や授業技術、思いを交わらせることで、教師としての力量を高める。 ・児童の深い学びの姿、そこにせまる対話場面、そのしかけを常に意識した授業づくりを今後も行っていく。	○図書の先生や委員会の努力に感心した。
	課題克服に向けた朝学の充実	7	読解力向上に向けた、速読解トレーニングの実施、点検 週に2回速読解を行い、夏季休業中に点検を行った。読むことへの意識が高まった。	B		・回数や各学年の取組内容について精査することや、指導方法を共有することを通して、速読解の質を向上させていく。 ・1年間の成果が見えにくいため、意識調査を行うなどし、評価の術を検討していく必要がある。	●コミスクで読み聞かせをしてはどうか。子どもの興味に合った本の購入。（希望調査など）
	家庭学習習慣の確立	8	チャレンジ家庭学習強化週間（学期に2回）の実施 年間の達成状況は、学習時間97％、ていねい99％、見直し95％である。	A		・学期に2回、年間6回のチャレンジ家庭学習を継続して実施し、「学習時間・ていねい・見直し」の達成状況で100％を目指す。 ・自主学習について、学年間の差が大きいと感じるため、実践交流の場をもち、学年に応じた効果的な取組を目指していく。	
	読書活動の充実	9	家庭読書の推進・団体貸出・定期的な教職員や図書委員会からの読み聞かせの実施 家庭読書の達成状況は96％ ボランティアさんとも連携し読書環境の整備に努めることができた。	B		・今後も団体貸出・読書週間・図書ボランティアさんとの連携・読み聞かせ等に継続して取り組み、読書習慣の定着を図る。 ・家庭での読書活動に課題がある。今後も「図書便り」「家庭読書」に継続して取り組み、啓発に努める。	
健やかな体の育成	体力づくりに向けた取組	10	体育ノートの活用と体育の時間の杉小サーキットの実施 体育ノートを活用することで1年を通していろいろな種目に取り組み、体力アップを図ることができた。	B	A	・体育の授業以外の時も児童自ら体育ノートを活用できるように推進していく。 ・体育ノートの中身を見直すことで、より児童が取り組みやすい競技や内容にし、自主的に活用できるようにしていく。	○養護教諭を中心に、保健指導が充実している。
	芝生の特性を活かした授業づくり	11	タグラグビーなどの新種目を実施 体力アップサポーターの指導を受け、新種目を知ることができた。	A		・コロナ禍ということもあり、団体での競技が上手くできなかった。しかし、体力アップサポーター推進事業を通して、新しい競技を知ることができた。今後の学習に生かしていきたい。	予防が生活の一部になっている。学校の指導のおかげだと感謝している。
	感染症に対応した生活様式の確立	12	児童が主体的に感染予防ができる指導の実施 手洗いチェッカーを使用しての指導を通して、手洗いの仕方を見直せた。全職員で取り組み、感染症の拡大がなかった。	A		・引き続き、児童が主体的に動ける感染症予防を推進していく。 ・予防がマンネリ化しないように、専門家に指導を受けていく。	●来年度は水泳ができることを願っている。
	健康情報センターとしての役割	13	リアルタイムな健康情報の発信 掲示物やほけんだより等を通して《今》必要な健康情報を発信し、健康意識は高まりつつある。	A		・ただ発信するだけではなく、《立ち止まって見たくなる掲示物》《読みたくなるほけんだより》の作成に取り組んでいく。	
	自己改善に繋がる食育の推進	14	「食に関する指導計画」に基づき、外部講師と連携しながらの系統だった指導の実施 感染防止の観点から、給食センター作成の映像も取り入れ実施した。	B		・感染拡大防止の観点から活動が制限される面はあるが、ICT機器を活用して、発達段階に応じた活動に取り組んで行く。 ・今後も、「食に関する指導計画」に基づき、系統だった指導を続けていく。	
生活指導の充実	いじめの未然防止と早期発見	15	校務支援ソフトによる学年毎の児童の実態の調査と、生活指導委員会およびケース会議の実施 校務支援ソフトを活用し、校内の情報を効率よく共有できた。	B	A	・情報共有の機会を多く確保するとともに、プラットフォームの統一化を図る。 ・校務支援ソフトへの記入により情報共有がスムーズにできたが、記入形式の統一が不十分なので共通理解を深めていく。	○これからも素早く、情報共有ができるよう努めてほしい。
	いじめの早期解決	16	管理職・生活指導担当を中心としたいじめ対策委員会とケース会議の実施 早期発見・早期対応を意識し、担任と共有しながら継続的な対応ができた。	A		・各担当と情報共有を迅速に行い、会議開催にあたって必要な人員を適切に選択し、対応に努めていく。	
ふるさとを愛し、夢を抱く児童の育成	杉原紙学習の推進	17	杉原紙制作のための工程や歴史についての展示物の作成 6年総合学習にて、工程表を作成し、杉原紙制作の授業の実践を行った。	B	A	・杉原紙について、児童の学習した内容を発信する手立てとして掲示物の作成を続けていく。 ・作ったものをどのように加工するのかを各学年でリスト化し、なぜ作るのか目的意識をもてるようにしていく。	○ふるさと検定により、子ども達は地域に関心をもっている。郷土愛が育まれている。
	総合的な学習の時間の充実	18	環境教育・福祉教育など地域に根ざした教育の実施 各学年で地域の良さを知ったり、地域の方との交流を深めたりすることで地元の良さに気付くことができた。	A		・各学年のテーマと年間の見通し、更には次学年へのつながりを意識した取組を今後も継続する。 ・総合的な学習の成果が当該学年以外に伝わりにくい部分があるため、写真や制作過程などを記録として残し、今後に生かす。	●漉いた杉原紙の使用目的の明確化。
	ふるさとカリキュラムの有効活用	19	全校生と保護者を対象にしたふるさと検定の実施 全児童がふるさと検定を受けた。全家庭数に配布、約8割の家庭で実施・回収し、検定証を配布した。	A		・来年度も、ふるさと検定を実施し、ふるさとを愛し、誇りを持った子の育成を目指す。 ・講師先生を迎えて話を聞いたり、校外に見学に出かけたりするなど、可能な範囲で体験的な理解を伴う活動を取り入れていく。	●千ヶ峰登山の実施。
	キャリア教育の推進	20	キャリアパスポート前期分・後期分の記入 年度途中と年度末に振り返りをさせ、次年度につなげた。	A		・今後もキャリアパスポートへの記入だけでなく、各行事の後や学年末に振り返りをさせることで、スキルアップしたことや他への働きかけを実感させ、新たな学習活動への意欲につなげる。	
防災・安全教育の充実	適切な防災・安全指導	21	校内安全点検・登下校指導・避難訓練の定期的な実施 視覚教材、情報機器を活用した避難訓練を実施し、児童が主体的に考え訓練する姿が見られた。	A	A	・校内安全点検の形骸化を防ぐため、学期ごとに複数の目で確認する機会を設ける。 ・安全防災マニュアルの実用化に向け、残留者・避難所開設想定など、具体的な場面を想定して訓練を行いマニュアルの見直しを行う。	○ボランティアの方々にとてもよくしていただいている。
	PTA・地域人材との連携	22	見守りボランティアの組織拡充と連携 杉小だよりをお届けし、学校の状況を共有できた。コロナ禍で直接意見を聞く場を設定できなかった。	B		・見守りボランティアの会議を開催し、課題点を洗い出し、更なる充実を図る。 ・見守りボランティアへの参加を引き続き要請する。PTA・職員による立番を継続する。	
特別支援教育の充実	個別の支援・指導計画の適切な実施	23	支援を要する児童の課題・実態把握と適切な個別の支援・指導計画の実施 専門家を招聘して児童の実態把握の参考とし、より具体的な合理的配慮ができるようにした。	A	A	・今後も、支援を要する児童の実態を把握し、課題や必要な合理的配慮を明確にした指導計画をもとに適切な支援をする。 ・専門家の助言を参考に、校内の支援体制を整え、児童の実態に即した指導ができるよう取り組む。	○特別支援学級を特別視することなく、自然に関われている。
	インクルーシブ教育の推進	24	全ての児童が過ごしやすい学校を目指した合理的配慮のある教育の推進 個々の違いを認め合う集団づくりと共に誰もが学びやすい環境づくりを行った。	A		・個々の違いを認め合い、思いやりのある集団づくりに取り組むと共に、ユニバーサルデザインの視点のある学びの環境づくりを進めていく。	
情報教育の充実	Chromebookの有効活用	25	思考の共有や表現を支援するツールとしての活用 各教科の学習等で活用し、活用・表現能力を育成することができた。	B	B	・児童の思考を表現するツールとして、場合に応じて効果的に使用していく。 ・教材配布や動画視聴など授業を支援するツールとして、より有効的に使用できるよう研修・情報共有の時間を確保する。	○子どもの使いこなし感から、学校の努力を感じる。
	情報モラルの育成	26	インターネットの活用における留意点および、付き合い方の確認 年間計画に即して、各学年で必要に応じた情報モラル教育を実践した。	B		・指針は示したが、実際に子ども達がどのように理解しているのかを図る機会が不十分だった。 ・年度当初から情報モラルについての理解を深め、教員全員が同一歩調で取り組めるよう研修を行う。	●プログラミング教育の充実。
	プログラミング教育の推進	27	ビジュアルプログラミング（scratch・WEDO）を活用したプログラミング的思考の育成 職員研修を実施し、取組についての共通理解を図った。	B		・指導要領の内容に授業時間が圧迫され、活動としては不十分なものになってしまった。 ・特別にプログラミング教育を行うのではなく、教科の中で無理なく実施できる内容となるように精査していく。	
信頼される学校づくり	保護者・地域の要望への対応	28	学校便りの返信欄や、行事ごとのアンケートによる保護者の要望把握、迅速対応 保護者の意見に対し迅速に対応ができた。行事ごとの保護者へのアンケート実施が十分でなかった。	A	A	・行事実施後にアンケートを行い、保護者の意見を吸い上げる機会を多く持ち、保護者の思いに沿った教育活動を進める。 ・要望に対しては迅速に回答を伝え、信頼関係を築くように努力してきている。今後も誠意を持って対応することで保護者との絆を深める。	○誠実な情報開示により、安心感がある。
	積極的な公開、情報提供	29	ホームページを週に3回更新。更には、学校便りやメールによる、情報の確実な提供 計画通り情報提供を行った。タイムリーな話題を提供することで、学校への理解を得ることができた。	A		・ホームページ・学校便りを活用し、学校の思いや教育活動のねらいを発信する。 ・情報を積極的に提供し、学校の取組への理解を得ることで、保護者と連携を強化する。	○心が成長しているのが分かる。温かい指導のおかげである。
	コミュニティー・スクールの設置	30	コミュニティースクール設置に向けての計画的な組織づくり(学校評議員との連携) 年度末のコミュニティースクールにおいて、令和3年度教育評価を基に来年度に向けての意見をいただく。	A		・組織づくりは完成し、第1回目の会の開催も予定している。来年度は、機能的な組織づくりを課題に挙げ、委員会の充実を進める。	